

氏 名	荒川 祐貴
学 位 の 種 類	博 士 (看護学)
学 位 記 番 号	第 6 3 8 号
認 定 課 程 名	国立看護大学校研究課程部看護学研究科後期課程
学位授与年月日	令和2年3月19日
論 文 題 目	地域への移行支援に焦点をあてた急性期病棟に入院する患者への Care Coordination Competency Model(TCCCM)の考案 ( Development of a Transitional Care Coordination Competency Model (TCCCM) for acute care unit.)
審査担当専門委員	(主査) 大 阪 大 学 教 授 小 西 かおる 東京家政大学 教 授 及 川 郁 子 聖隷クリスト ファー大学 教 授 本 田 彰 子

### 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、急性期病院における平均在院期間が年々短縮し、地域における医療依存度の高い療養者や再入院の増加という課題が起きている現状において、地域への移行支援に焦点をあてた急性期病棟に入院する患者への Care Coordination を明確にした研究であり、結果として明らかにされた Transitional Care Coordination Competency Model (TCCCM)は、急性期病棟に入院する患者が地域へ移行する際の多職種に求められる役割や能力が示されており、各職種がお互いの専門性を活かして効果的に連携する上で実践的意義が極めて高いと評価できる。

本研究では、病棟から地域への移行期に関わる病棟看護師、退院支援部門の看護師、訪問看護師から半構造化面接を用い、地域移行に必要とされるケア内容を網羅的に抽出し「情報収集とアセスメント」、「療養支援と自立支援」、「地域への移行支援」と「これらを支える基盤」となる4側面から構成される TCCCM モデル案を作成している。さらに、この TCCCM モデル案の項目を洗練させるために、全国の1,100人の病棟看護師に対する Web 調査を行っており、有効回答率 25.4%の分析対象から、全ての項目に対し9割以上が重要との回答を得ている。また、実施頻度の回答による確認的因子分析、内的整合性等の検証を行った結果、最終的に8コアカテゴリー27項目からなる TCCCM を作成している。

実践の質的研究を基盤とし抽出された TCCCM の項目及び構造は、理論的基盤

が明確であり、実践への応用価値も高く、地域移行にかかるすべての職種の基礎教育および現任教育への活用が期待できる。

以上より、本論文の実践的および学術的価値は高く、博士（看護学）を授与するのにふさわしいと評価され合格と判定した。